



市長から市内のA型・B型事業所に対し感謝状が贈られた。代表して受け取ったのはグリーンファームの坪井直人さん



厚生労働省職業安定局長から障がい者雇用に尽力したとして、市長に感謝状が贈られた

### パネリスト・コーディネーターが障がい者雇用施策を語る



一億総活躍・働き方改革担当  
加藤 勝信 大臣

従業員数が50人以上の企業で障がい者を雇っていない企業が日本全体で約3割ある。受け入れてくれる環境をつくっていききたい。総社市が千人雇用事業で培ったノウハウを全国に広げてほしい。



厚生労働省  
橋本 岳 副大臣

中小企業にも障がい者を雇用していただきたい。非正規雇用者を正規雇用すると助成金が支給されるといった制度もある。執行率が低い制度があるので、厚生労働省としても知っているだけで努力をしていく。



コーディネーター  
片岡 聡一 市長

これから障がい者1500人雇用を目指していくと同時に、生活の質を上げていく。総社市が全国の障がい者雇用のけん引役になっていく。皆さんと一緒に障がい者1500人雇用を達成したい。



岡山大学病院精神科神経科 医師  
流王 雄太 さん

障がい者が働くことが社会のプラスになっている根拠を見つけ出してほしい。社会は障がい者を受け入れてくれはじめたが、まだハードルが高い。あきらめず自分を生かしてもらえ場所を見つけてほしい。

2部構成で開催された記念フォーラム。第1部では、事業開始からこれまでの取り組みが映像で紹介されたほか、市内の障がい者就労継続支援事業所の代表者として働く利用者が活動内容を紹介します。A型事業所「グリーンファーム」で就労している高杉有登さんは、「ミニトマトがおいしいと言われてもらえてうれしい。リピーターが増え、やりがいにつながる」と、B型事業所「みぞくち」で就労して

いる西村照代さんは、「もちを作る際、異物が入らないように気を付けています」と報告しました。第2部は、市長をコーディネーターに、加藤勝信大臣、橋本岳副大臣、流王雄太さんがパネルディスカッション。小学校入学前に子どもの特性を知る機会を設けることや、障がい者の賃金を向上させ、生活の質を上げていくこと、障がい者の雇用1500人を次の目標とすることなどが話

し合われました。また、障がい者千人雇用事業に貢献したとして、市内の障がい者就労継続支援A型・B型18事業所に市長から感謝状が贈られました。このフォーラムには約500人が出席。次の目標に向けて出席者全員が気持ちを新たにしました。市では、これからも障がい者雇用の支援と生活の質の向上に取り組む、安心して活躍できるまちづくりを進めていきます。

## さらなる生活の質の向上と雇用者数1500人を目指す!



1000人達成を記念し、開催された記念フォーラム。多数の関係者からお祝いの言葉が贈られた

## 総社市の障がい者雇用施策はセカンドステージへ



市が取り組んできた障がい者の雇用を1000人とする目標は、約6年をかけて、今年5月に達成しました。これを受け、7月9日、市民会館で記念フォーラムを開催。これまで千人雇用に関わってきた関係者らが一堂に会し、障がい者雇用の未来について考えました。

問い合わせ 福祉課障がい福祉係 (☎ 8269)